



認知症研修会 開催結果

～認知症ケアに関わる取り組みについて学ぼう～



- ・ 日 時 令和7年2月4日（火） 18:00～19:30
- ・ 場 所 ハイブリッド開催（市立病院2階会議室及びZOOM）
- ・ 参加者 51名 （医師1名、歯科医師1名、薬剤師1名、看護師17名、
認知症認定看護師1名、保健師8名、介護支援専門員5名、介護職3名、
ヘルパー2名、社会福祉士2名、MSW1名、主任生活相談員1名、
施設管理者4名、行政職4名）
- ・ 目 的 認知症ケアに関わる取り組みについて医師や専門職から学び、認知症ケアに関わる関係者が日頃の困難事例への対応について広く情報共有し検討する機会とする

開会挨拶と司会進行の福島在宅生活支援小部会長



講 堂

北空知地域医療介護連携推進協議会
認知症研修会
2月4日（火）午後6時00分
会場 2階中会議室

続々と受け付けに参加者が到着します

- ・ 今回は市立病院会議室とZOOMのハイブリッド開催としました。
- ・ 参加者は51名と会議室の定員60人に近くなりましたが、ZOOM参加もあり会場には余裕がありました。
- ・ 研修内容は、
 - （1）代田医師による講演
 - （2）質疑応答
 - （3）認知症に関わる困難事例意見交換会
 - （4）全体共有
 - （5）アンケート記入という流れで行われ、全体で1時間30分となりました。



市立病院会議室での研修は久しぶりの開催となりました

専門家の立場から講演を
いただいた代田医師



認定看護師が場内をラウ
ンドします



質疑応答では、病院を嫌がる患者をどう診察に繋げると良いかや、運転をやめさせたいがどう伝えたらいいかわからない、どの程度まで運転させていいものかという相談があった場合、医師は家族や本人にどのように説明されているのか。何か良い方法はあるか、などの質問があり、代田医師からそれぞれ適切な回答がありました。

代田医師からは、認知症に関する医学的見地からの判断基準や、主だった疾患、対策などについて説明があり、

- ・認知症の定義、せん妄を火に例えた場合の3つの因子の説明、認知症高齢者は2012年で462万人だったものが2025年には700万人に増加するという推計がある
- ・また、よく知られているアルツハイマー型認知症以外にも血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などたくさんの疾患があり、薬による治療だけでなく環境調整などの適切なケアが必要
- ・包括的ケアや多職種連携による本人の意思をくみとることや細やかな治療・ケア戦略をとる必要がある
- ・アルツハイマー型認知症のケアのポイントは失敗を否定したり指摘したりしない・簡単な言葉で複数を同時に言わない・カレンダーなどを目立つところにおき一緒に印をつける、できることは継続し励ます等
- ・レビー小体型認知症はアルツハイマー型認知症と比べケアが難しく症状が介護力を上回ることが比較的早期に訪れる

など専門的知見から講話をしていただきました。

グループワークの内容を
全体共有します



○参加者アンケートから

- ・抱えているケースのHP関係者と事例を共有できた
- ・具体的な対応方法を聞けて参考になった
- ・専門医からの講話が聞けて良かった
- ・皆共通する課題を持っており、解決案はなくても情報の共有や業務に活かされる話し合いができた